

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	ベーシックレッスン1_a	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	開講時間		授業形態	演習
教科書/教材	必要に応じて譜面、資料等を配布する。				
担当教員情報					
担当教員	川島 基宏/甲原 圭		実務経験の有無・職種	有・トラックメーカー/作曲家	
学習目的					
基本的なDAWソフト操作からサウンドメイキングまで修得し、またエフェクト効果などを習得することにより其々の作品のクオリティを上げていく事を目的とする。トータルバランスを視野に入れたサウンドメイキングを各学生が制作し2年次での卒業制作・デビューに向けての準備を行う。					
到達目標					
音楽制作に必要な基本的な操作・知識・技術を学ぶ。1年次は主に4リズムセクションへのサウンド効果の技術・知識の習得を目標とする。実際の生楽器にも触れることにより、DTMにおける作業にリアリティを持たせる。生楽器の音を知ることにより、DAW上で施すエフェクト処理に大きな違いが生れることを意識づける					
教育方法等					
授業概要	DAWの操作方法、基本概念、基本的な（ベーシックな）エフェクトの使い方をCubaseを使用して学んでいく。 授業前半は講義・解説、後半はそれを実際にPCを使い実践していくスタイルで行う。				
注意点	スキルに個人差があるので、個別対応も行う。不明な点はその場で質問すること。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	40%	課題発表の内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	基本概念		音楽制作の実情と何が必要かを把握する		
2回	DAWの操作方法①		基本操作法、PCソフト立ち上げ・保存方法		
3回	DAWの操作方法②		音色の設定、トラック制作		
4回	DAWの操作方法③		ソフトウェアの各機能の理解・操作法		
5回	ドラムサウンド①		入力方法、パターン		
6回	ドラムサウンド②		コンプレッサー、エフェクト効果		
7回	ベースサウンド①		入力方法、パターン		
8回	ベースサウンド②		コンプレッサー、エフェクト効果		
9回	ギターサウンド①		入力方法、パターン		
10回	ギターサウンド②		コンプレッサー、エフェクト効果		
11回	キーボードサウンド①		入力方法、パターン		
12回	キーボードサウンド①		コンプレッサー、エフェクト効果		
13回	4リズム		音の基礎知識、サンプリング周波数、ビットレート		
14回	4リズム		音の基礎知識、サンプリング周波数、ビットレート		
15回	前期まとめ		作品提出		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	ベーシックレッスン1_b(ノーテーション/アレンジ)	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	開講時間		授業形態	演習
教科書/教材	必要に応じて譜面、資料等を配布する。				
担当教員情報					
担当教員	二本柳一明・下條慧		実務経験の有無・職種	有、ミュージシャン、作曲家	
学習目的					
譜面と言うツールを用いて他人と意思を疎通させる能力を身につける。具体的には 1) 譜面を用いて様々な理論を学ぶための準備を行う。 2) 15回までの学習過程で、結局は基礎的な楽典を学ぶことになる。大局的な視点で音楽を捉えられるようになる。 3) 4 rhythm section に関するオーケストレーション・スコアリングを学ぶことにより、生・打ち込みに関わらず、アレンジング全般の基礎部分を身につける。					
到達目標					
1) 苦勞せずにノートを取る事が出来るレベルの読譜力と写譜力。 2) 根本的な仕組みを理解した上での正しいリズム表記。 3) 4 rhythm に関して、楽器の特性に関する充分な理解。 4) 4 rhythm (+ lead 楽器) セットアップでのスコア(およびパート譜)作成。					
教育方法等					
授業概要	1~15回で記譜法、16~30回で 4 rhythm アレンジを扱う。記譜法を学びつつ、ポピュラー音楽用語全般を広くレビューして行く。授業形態は講義中心となるが、課題量が多めなので、講師二人体制でそれらをチェックすることにより、徹底的な理解を目指す。 後半アレンジセッションでは、各楽器約1回の講義の後、最低1週はその楽器に関する課題実習の時間を取り、 その中で楽器の特性とスコアリングに対する理解を個別に指導して行く。				
注意点	前期・後期とも単に「譜面が読める・書ける」ことを目標としているわけではなく、「読み手に余計な推理力を働かせることのない」譜面を作成することを常に念頭に置く。そのためには楽器に関する知識も必要であり、音楽理論も必要になってくる。 譜面を書くことで「この先自分は何を学ぶべきか」が、学生一人ひとりに意識付けられるような指導を心がける。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	20%	トピックが変わるごとに実施		
	小テスト	20%	リードシートの作成		
	レポート	30%	指定された編成でのスコアおよびパート譜の作成		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業内容を定着させる目的で、必要に応じて出題		
	平常点	10%	出席率および受講態度		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	記譜に関する基本的な約束事について		大雑把に譜面の表すものを把握する		
2回	duration - rhythm 基礎		基本的な音符・休符の表記と意味を習得		
3回	変化記号 - pitch 基礎		各種変化記号・enharmonic・circle of 5th・調号と転調の記譜について理解する		
4回	pulse 1		pulse pattern・小節線・pick up・clef change・拍子・meter change の記譜について理解する		
5回	pulse 2		meter change に伴う tempo change・スペーシング・tempo marking について理解する		
6回	pulse 3-1		rhythm の分類と記譜・flag/beam の記譜法・各種 time における pulse 間の強弱関係を理解する		
7回	pulse 3-2		第 6 回の続き		
8回	pulse 4-1		imaginary barline・primary および secondary beam・syncopation 表記・tuplet について理解する		
9回	pulse 4-2		第 8 回の続き		
10回	pulse 5		休符・tie・付点の記譜を理解する		
11回	voicing		voicing 全般・divisi・accidental 配置ルール・octave sign・col 表記について理解する		
12回	hold, pause, repeat など		fermata・pause・長休符・各種リピート記号について理解する		
13回	dynamics		各種 dynamics 表記について理解する		
14回	articulation		各種 articulation 表記について理解する		
15回	中間課題		中間課題の最終チェック		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	ベーシックレッスン1_c	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	開講時間		授業形態	演習
教科書/教材	配布資料				
担当教員情報					
担当教員	佐倉 繁		実務経験の有無・職種	有・作編曲家 プロデューサー	
学習目的					
音楽基礎クラス、音楽周辺クラスでの修得事項を統合し、作・編曲、トラック制作に必要なあらゆる事項を総合的に理解し分析することを目的とする。 1年次は4リズムセクションに関して徹底的に分析することにより修了制作における基礎を築くことになる。					
到達目標					
各セクションの分析をすることによりトータルな（4リズムセクションの）サウンドを構築できるようにすることを目標とする。 あらゆるジャンルにおける分析を行うことにより、独自のトラックを制作できるようになることを目標とする。					
教育方法等					
授業概要	基本情報を基に「それらの情報が音楽を形成する上でどのように機能しているか？」を楽器の実音体験、アンサンブル、他あらゆる観点から体感する。音楽情報、音楽周辺情報、ノートテイクによる統合と活用。 レポート提出、プレゼンテーションによる具体的な実践も含まれる。				
注意点	ノートの取り方を工夫する。毎回のノート記録を累積して情報の整理を行う。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	70%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	0%			
	成果発表 （口頭・実技）	0%			
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	基本事項について		ノートの取り方、文書作成、メール文書、レポート作成方法		
2回	音の原理について①		振動・高さ・音程の組み合わせ		
3回	音の原理について②		倍音・コード種類		
4回	時間軸について①		Tempo、Beat Pulse		
5回	時間軸について②		Rhythm、Groove		
6回	音楽制作の流れについて①		作曲と編曲、現代の音楽の形について		
7回	音楽制作の流れについて②		Composition、Melody writing、Audio collectiveについて		
8回	トラック制作について①		モノラルとステレオ		
9回	トラック制作について②		マルチチャンネル、マルチトラック		
10回	トラック制作について③		DAWの利点と弱点		
11回	定位と距離感①		距離感の記録		
12回	定位と距離感②		距離感の操作		
13回	プレゼンテーションについて		アイディアをどう伝えるか？ストーリーをどうやって作るのか？		
14回	ライブラリーの構築について		音楽資料の整理とは？		
15回	前期まとめ		ノートをまとめ提出		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	ベーシックレッスン1_d(レコーディング)	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	開講時間		授業形態	演習
教科書/教材	資料は必要に応じて配布します。				
担当教員情報					
担当教員	鈴木一義・永田志実		実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的					
現在の音楽制作において、作曲家はメロディの制作だけにとどまらず、DAWソフトを使用した完成品での納品を求められるケースが多く見受けられる。その制作過程において、自身や外部ミュージシャンに依頼をし生楽器の演奏を録音することは必須条件となっている。また録音は外部のスタジオにとどまらず、自宅の制作環境でも多く行われている。そして、そのどちらにおいても同様の高いクオリティの作品を求められるケースは少なくない。この授業を通し、楽器の特性や録音方法、また、外部スタジオで最も多く導入されているProToolsへのデータコンバートの方法など極めて実践的なアプローチを習得することを目的とする。					
到達目標					
毎回の講義、録音実習を通して、録音に使用するマイクの種類や特性を学び、録音スタジオでのルーティングを理解をする。また、各自でセッティングをし、DAWソフトウェア（Cubase・ProTools）を使用し、楽器に対して適切な録音を行えるようにする。 DAWでの録音作業と並行してオーディオファイルについても理解を深め、最終的には録音したオーディオファイルの編集、それらを用いたラフミックスの作成までを行えるようになることを目標とする。					
教育方法等					
授業概要	録音実習では、DAW教室でのナレーション、ボーカル、ギター、ベース等楽器のレコーディングを経験する。 DAWを使用した演習では、学生が録音したオーディオファイルを含め、DAW上で行うオーディオ編集、エフェクト処理等、オーディオファイルに関連する様々な事項を学びます。				
注意点	授業の際は筆記用具、ノート（五線紙もあることが望ましい）、データを記録する外付けHDD（SSD）、ヘッドフォン（必要に応じてミニステレオ→標準フォンプラグの変換）を毎回用意すること。毎回の授業内容はノートに採り、自身で繰り返し確認できるようにする。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1 回	ガイダンス・学内システムについて		SCR教室にあるPCの取り扱いについて。ログインID・パスワード、初期設定などを理解する		
2 回	オーディオファイルを理解する		オーディオファイルの理解、およびサンプリングレート、ビットレートについて理解する		
3 回	マイクの種類と特性		ダイナミックマイク・コンデンサマイクの取り扱い、および特性を理解する		
4 回	録音時の信号の流れについて		録音におけるルーティングを理解する		
5 回	Cubaseの基本操作(録音)		モノラルトラックを作成し、入力チャンネルの確認および録音再生を行う		
6 回	録音実習(1)ナレーション		DAW教室のルーティングを理解し、回線作りを行う。また適正な録音レベルを理解する		
7 回	オーディオファイルの編集		オーディオトラックの編集作業を理解する		
8 回	エフェクト、AUXトラック(1)		ダイナミクス系、空間系エフェクトの違いを理解し、適切なDAW内のルーティングを行う		
9 回	エフェクト、AUXトラック(2)		その他の特殊なエフェクトについて理解する		
1 0 回	オーディオファイルのインポート		Cubaseにオーディオファイルをインポートする方法を理解する		
1 1 回	録音実習(2)アコースティックギター		マイクを2本ステレオで使用し、適正な録音レベルでアコースティックギターの録音を行う		
1 2 回	MIDIについて(1)		SMFファイルの構成を理解する		
1 3 回	MIDIについて(2)		SMFファイルの必要性を理解する		
1 4 回	前期試験		各自指定されたマイクを選択し、ボーカルレコーディングを想定しセッティングを行う		
1 5 回	前期まとめ		Cubaseを使用し、オーディオトラックの編集、エフェクトの扱いを復習する		